

今回の義務教育学校制定に向けては、1小学校・1中学校で構成される金田地区が最もスムーズな移行が可能であることから、町全体のモデルとしての新設計画が進んでいます。9年間を一つの学校として捉え、系統的な教育、継続的な生徒指導を行う義務教育学校。小学校から中学校に進学するとき、学級担任制から各教科担当制への変更や学習環境の変化に対応できない問題にもこの一貫教育効果があるとされています。「多様な世代の子どものための環境を統一し、とまどいを減らすことで、

一貫教育が広げる可能性



不登校やいじめなど広い範囲の問題解決に良い影響があると確信しています」と辻村教育長もその効果に期待を寄せます。義務教育学校の大きな特徴が、一貫教育の軸となる9年間を通して独自の教育の推進。地域を学習する「ふるさと教育」など、町の方針に合わせた継続的な教育に取り組むことができ、また同一校舎の利点を生かし、小・中学校の垣根を越えた異学年交流も可能。中3と小1の合同遠足や合同音楽祭など、行事・スポーツ・文化の多方面で可能性がさらに広がります。



裏面 LEAR SIDE



内観 INSIDE

表面 FRONT SIDE



9年間を見据えた教育で、子どもたちにかげがえのない経験をさせてあげたい

赤池・方城地区に関しても、今後は「連携教育」という形での一貫教育の推進が想定されています。中学校の英語や音楽・理科など専門的な教科の教員が小学校で授業を行う「乗り入れ授業」の継続や、イベント・行事の小中学生共同での実施など、各中学校区ごとに連携した教育を目指していきます。

「赤池には上野小学校、方城では弁城小学校という小規模学校もあり、各学校ごとの良さがある。各地域の実情を考慮しつつ、一つの大きな教育目標に向かうという方針は町全体で共有していきたい」と今後の展望を述べた辻村教育長。今後も保護者や関係機関との検討を進めながら、金田地区だけでなく町全体で、子どもたちの未来に向けた教育を見つめ直していきます。

町全体で目指す小中連携

6年+3年、義務教育9年間を見据えた教育の新たな形

小中一貫教育、始動。

小・中学校教育を一つに「義務教育学校」新設へ

小学校6年、中学校3年。9年間を通して行われる義務教育。現在建設中の金田小中学校の開校に合わせ、小中学校教育を一つに捉えた指針が打ち出され、福智町の教育は新たな方向に舵を取りました。

4月開校予定の新設校は県内3例目となる「義務教育学校」と呼ばれる学校種での新設を目指しています。これは平成28年に施行された改正学校教育法で設置が可能となった新たな学校種で、小学校・中学校と並ぶ3つの学校形態。小中一貫教育の基本形として、一人の校長のもと、一つの教職員集団が義務教育9年間で一貫した教育課程を編成・実施することが最大の特徴です。

「義務教育の9年間は子どもの成長に最も重要な基盤。長期的な見通しと広い視野で、子どもたちにかげがえのない、貴重な経験をさせてあげたい」と辻村哲弥教育長も力を込めます。今回の教育改革は町の大きな目標の一つであり、ついに実現した長年の悲願でもありました。

